

関西実験動物研究会の展望

芹川忠夫

関西実験動物研究会 会長

この度、関西実験動物研究会 30 周年記念大会（第 120 回研究会）を開催するに至りました。若い頃に創設の準備段階から関わったものとして、大変感慨深いものがあります。実験動物、動物実験、および関連の諸科学を学び、周辺の諸問題について忌憚なく話し合える場を提供しようと本研究会を運営してきました。関西実験動物研究会の発展には、関西特有の文化が影響しているように思います。恰好づけることを好まず、誰もが本音で意見交換をすることが出来るという雰囲気が根付きました。それゆえ、講演をお願いした先生を傷つけたことも少なからずあり、ヒヤヒヤする場面が何度かありました。このようなスタイルで、年 4 回、120 回も休まず続けたのですから、ユニークな存在でそれなりの役割を演じてきたと思います。しかし、最近、その様相に少し変化が見えてきました。社会の変化が実験動物界にも及んでいることが底辺にあるのでしょうか、意欲のある高齢者は依然として目立つ一方、若手のエネルギーの取り込みが不足しているように思われます。

私は平成 7 年度から今年度までの 19 年間、関西実験動物研究会の会長を担って参りました。本研究会の会則に役職の停年制はありませんが、30 周年を迎えたこの機会に私自身はその役職を降りることに致しました。そして、来年 3 月に開催する評議員会において次期会長と執行部役員を決定して頂こうと思っています。実験動物・動物実験に関連する諸科学の発展が求められながらも、大学、研究所、企業において、それに応じた人員や体制を拡充することが難しい状況にあるようです。新体制においては、過去にこだわらずに、現状をよく分析して今後の関西実験動物研究会の在り方を検討して頂きたいと思います。そうすることによって、現状の問題点が克服され、新たな関西実験動物研究会をスタートすることができると期待しています。

関西実験動物研究会には多くの先生にご講演を頂き、「関西実験動物研究会報」に寄稿して頂きました。ここに改めて御礼を申し上げます。そして、会員、維持会員、評議員、幹事、監事の皆様には、ご協力とご助言を賜り誠にありがとうございました。皆さまと長く楽しく過ごさせて頂いたこと、深く感謝申し上げます。